

協働事業報告書

事業の名称	苦楽園口・夙川キャンドルナイト「光の散歩道」2010		
団体名・氏名	苦楽園口・夙川キャンドルナイト実行委員会 代表 多喜 淳	関係課(G)名	産業振興グループ
事業費	278,804円	市の負担額	100,000円

事業の目的及び内容	(目的) 地域団体、市民、大学等が連携し、地域の賑わいを創出、地域商業の活性化を図ることを目的としている。	
	(内容) 夏至と冬至の夜間2時間電気を消してキャンドルの明かりで過ごす等のイベントを開催する。	
	(市民活動団体等の役割) 事業の企画・立案・運営	(市の役割) ・ 市政ニュース等での広報 ・ 市内の各団体に対する情報提供、参加の呼びかけ

	市民活動団体等	市
協働事業の成果・効果	夏、冬あわせて、のべ89の協力店舗が参加。メイン会場では、コーヒーのサービスやイベントのシンボルとしてのインスタレーションなどでにぎわいをもたせた。地域の小学生の絵が描かれたとうろうを協力店舗に設置し、地域住民がそれを探しに街にくりだすという動きがみられた。名塩和紙、和ろうそくといった、西宮市の伝統工芸とのワークショップ、コラボレーション、大手前大学との連携も実現した。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞および市ホームページへのイベント情報掲載を通じ、開催地域および当該イベントの効果的なPRを行った。 ・ 市内伝統産業（名塩和紙、和ろうそく）を用いたキャンドル製作を行うことにより、イベントの充実を図った。 ・ 大学、近隣他団体および子ども留守家庭センターとの連携を通じ、地域の“ヨコ”のつながりを意識したイベント実施を行うに至った。
課題	ムーブメントとして地域に根付かせるためにも、もっとたくさんの協力店舗を集める必要がある。住民がもっと参加しやすいイベントなどを行い、認知度や関心度を高める必要がある。	今回構築した大学、他団体等との連携体制を自主的に発展させ、より効果的な活動の実施へつなげる必要がある。

注1 事業実施が確認できる資料（写真、新聞記事、作成したチラシ、パンフレット等）を添付してください。

注2 事業の成果・効果欄には来場者数、実施日数等の数値に表れる実績の記載をお願いします。

注3 印の箇所は関係課(G)で記入します。

自己評価書（産業振興グループ）

事業の名称	苦楽園口・夙川キャンドルナイト「光の散歩道」2010	
団体名・氏名 関係課(G)	苦楽園口・夙川キャンドルナイト実行委員会 代表 多喜 淳 産業振興グループ	
自己評価欄（該当する選択肢に をつけてください。）		
1．計画どおりに実施できたか	1．できた	主な理由（左記で3,4を回答した場合に記入）
	2．概ねできた	
	3．あまりできなかった	
	4．ほとんどできなかった	
2．事業実施により期待した成果を上げることができたか	1．期待どおり	主な理由（左記で3,4を回答した場合に記入）
	2．概ね期待どおり	
	3．あまりなかった	
	4．ほとんどなかった	
3．協働で事業実施した効果はあったか	1．非常にあった	主な理由
	2．あった	
	3．あまりなかった	行政の呼びかけにより、地域の大学、他団体等と連携した事業を実施するに至った。
	4．ほとんどなかった	
4．その他、評価すべき点、反省すべき点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の飲食店、小売店等にキャンドルを配置し、来場者の回遊を図る等、イベントを基軸とした地域商業への波及効果を意識した活動を行った。 ・ 新たに連携体制を構築した大学や他団体等との交流を継続、深耕することにより、今後、より効果的なイベントを実施できるよう期待する。 	

自己評価書

(苦楽園口・夙川キャンドルナイト実行委員会)

事業の名称	苦楽園口・夙川キャンドルナイト「光の散歩道」2010	
団体名・氏名 関係課(G)	苦楽園口・夙川キャンドルナイト実行委員会 産業振興グループ	
自己評価欄（該当する選択肢に をつけてください。）		
1．計画どおりに 実施できたか	1．できた	主な理由（左記で3,4を回答した場合に記入）
	2．概ねできた	
3．あまりできなかった		
4．ほとんどできなかった		
2．事業実施により 期待した成果を 上げることができ たか	1．期待どおり	主な理由（左記で3,4を回答した場合に記入）
	2．概ね期待どおり	
3．あまりなかった		
4．ほとんどなかった		
3．協働で事業実 施した効果はあっ たか	1．非常にあった	主な理由 今までにない、新しいネットワークを構築でき、 スムーズな連携をはかる事ができた。
	2．あった	
3．あまりなかった		
4．ほとんどなかった		
4．その他、評価 すべき点、反省す べき点	回をますごとに協力店舗が増え、事業の認知度があがってくるとともに、関連イベント等で、事業全体の盛り上がりもでてきました。その点は、多いに評価できると思います。しかしながら、ムーブメントとしての動きまでにはいたっておらず、今後とも引き続き実施していくことで、協力店舗を増加させ、認知度をあげる必要がまだまだあると感じております。また、もう少しわかりやすい説明や参加しやすい催しで、地域のイベントとして根付かせる必要もあると実感しています。	